

長野県林業総合センタ - ミニ技術情報

9 平成11年5月 1999.May.

(平成17年1月 一部修正)

長野県林業総合センタ - 塩尻市片丘 5739
 Nagano-prefectural Forestry Research Center
 TEL 0263-52-0600 FAX 0263-51-1311

ニセアカシアの枯らし方

キ-ワ-ド:ニセアカシア、除草剤、枯殺

ニセアカシアは、繁殖力が強く、次第に拡大して造林地や宅地などにも侵入することから、その除去が問題となっています。

ここでは、除草剤を用いてニセアカシアを枯らす方法について紹介します。

ニセアカシアとは

ニセアカシアは、北アメリカ原産で、1874年頃に日本に導入されたマメ科の高木で、現在は全県下で野生化しています。成長が早く、根粒バクテリアの作用により痩せ地でも生育が可能なことから、治山砂防用緑化樹として、戦前から導入され始めましたが、積極的に使われたのは戦後のことです。

ニセアカシアは、明るい場所を好みます。造林地や河川敷などの開けた場所であれば、春先に出た芽が、秋までに3m以上にまで成長します。その後も急速に成長し、芽が出てから3年目の春には、花を咲かせ、結実してしまいます。種子がこぼれれば、翌春には新たな実生が発生することにつながります。

仮に、刈り払いを行って地上部を枯らしたとしても、切り株から萌芽更新をしますし、根からも萌芽してきます。

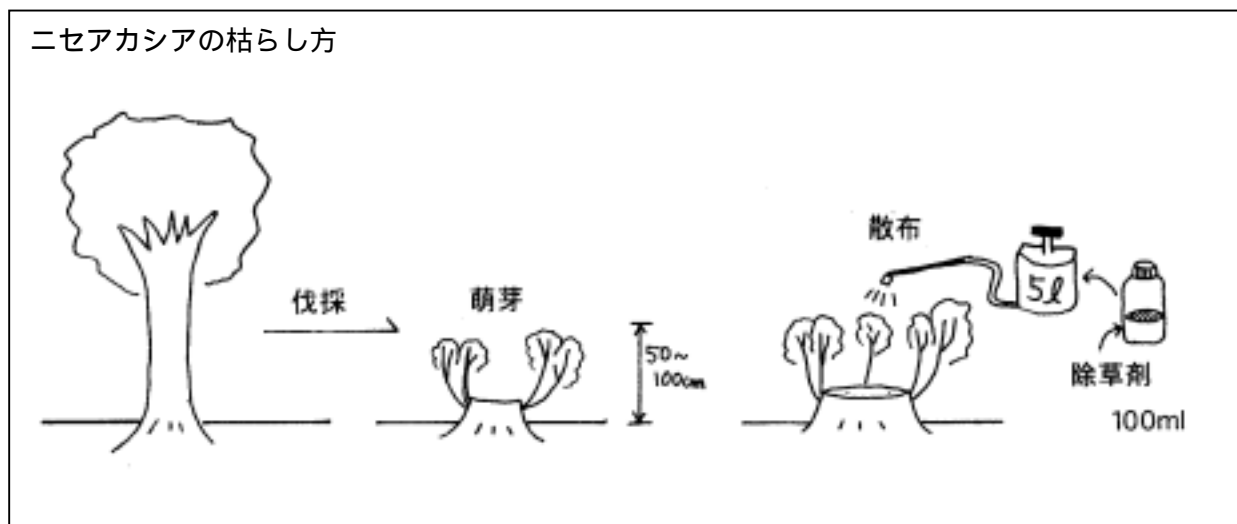
このように、実生から3年で花を咲かせてしまうことや、いくら切っても萌芽すること、また根が残っているだけでも萌芽するなど、繁殖力が極めて強いことから、根絶は困難です。

これまでも、除草剤以外の方法が無いのかと尋ねられ、年に3回程度2年にわたってニセアカシアを刈り払い、枯らそうとした事もあります。しかし、2年間(計6回)の刈り払いでは、ニセアカシアの成長を抑制しましたが、根絶はできませんでした。

枯殺には

このようにニセアカシアは、地下部が生存していると、翌年に芽を出してきてしまいますので、枯殺するためには根系までしっかりと枯らすことが必要です。そこで、薬剤成分が植物の体内を通過して地下部まで達する性質を持つ、浸透移行性の除草剤を用います。こうした薬剤としてグリホサート系液剤を

主成分とする「ラウンドアップハイロード、タッチダウン、草枯らし等」があります。



枯らし方

ニセアカシアを枯らすためにはまず、冬から春までの間に立木を伐採します。伐採すると、切り株から萌芽が発生してきますので、伐採後1～2ヶ月ほど経過し、萌芽が0.5～1m程度に成長した時に、除草剤を散布します。散布する際には除草剤を50倍に薄め、葉の表面が濡れるまでたっぷりと散布してください。

散布から1週間後くらいで葉の変色が始まり、2ヶ月くらい経過すると、幹が枯死し始めます。翌春まで経過した頃には、根までしっかり枯れています。

これらの除草剤は、樹種を選ばずにどんな植物でも枯殺する性質を持っています(ミニ情報No.34参照)。このため、除草剤の散布にあたっては、周囲に生育している植物まで枯らさないように、風のない時に散布量の少ないノズルを使用することが重要です。今回紹介した薬剤のうちラウンドアップハイロードに対しては、ラウンドノズルという少量散布用のノズルが市販されています。

除草剤散布の条件

今回紹介したグリホサート系液剤は、土に触れると速やかに不活性化されてしまいますので、土に触れさせないことが必要です。また、散布した後に雨が降ると除草剤が流れてしまいますので、散布後6時間は雨が降らない様な日に散布することが大切です。

参考

農薬登録については、農薬検査所ホームページ <http://www.acis.go.jp/> を参考にしました。

担当者 育林部 小山泰弘